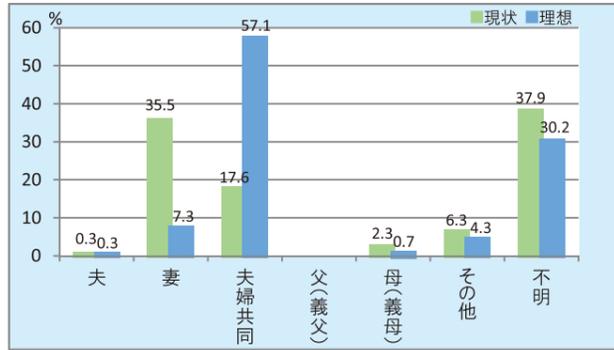


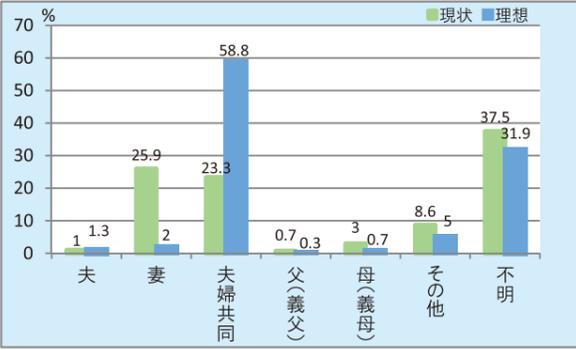
## 平成27年度別府市男女共同参画社会づくりに関するアンケートより(抜粋)

家庭内の役割分担をみると、現状では「妻」の割合が高く、理想では「夫婦共同」の割合が高いことがわかります。

### ★育児★

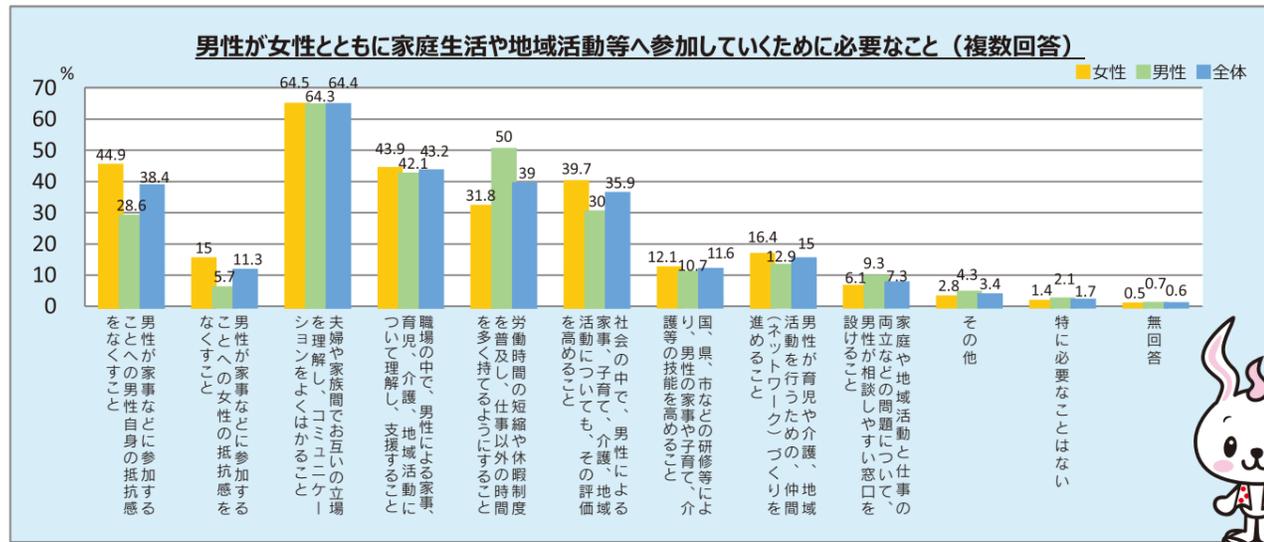


### ★家族の介護★



～夫婦や家族でお互いを思いやる気持ち、コミュニケーションを持ちましょう～

今回のアンケート調査では、女性も男性も、「夫婦や家族間でお互いの立場を理解し、コミュニケーションをよくはかること」と回答した人が最も多くなりました。家事、育児、介護などについて、夫婦や家族で話しあってみましょう。



アンケート調査の結果は別府市のホームページにも掲載しています♪ <http://www.city.beppu.oita.jp/>  
あす・べっぴのホームページはこちらです→ <http://www.city.beppu.oita.jp/asubeppe>

## 女性のための電話・面接相談

1人で悩まず  
まずはだれかに相談してみましょう

女性相談員が配偶者等からの暴力(DV)等の悩みをお聴きします。また、専門の相談機関に相談することもできます。  
(相談は無料で秘密は守られます)



### 別府市の相談窓口

- 男女共同参画センター「あす・べっぴ」(ニューライフプラザ内)  
毎週火～金曜日 午前9時30分～午後4時  
☎0977-21-7820
- 女性相談(別府市役所)  
毎週月～金曜日 午前8時30分～午後5時  
☎0977-21-1141

【編集後記】県下にも先駆けて別府市に男女共同参画センターが設立されて3年目。今年も男女共同参画フォーラムをはじめ様々な講座等が開催され、男女を問わず充実した人生を送るための情報や学習の場を提供してくれています。市民のセンターへの認知度が、別府市の男女共同参画の推進には大きくかかわると感じた1年でした。この広報誌『あすてっぴ』が、少しでもセンターの役割を広め、男女共同参画推進に貢献できることを願っております。  
市民編集委員 小川 恵子 花木 淳子

湯のまち「べっぴ」

# 男女共同参画

# あすてっぴ

2015あす・べっぴ主催講座  
2015べっぴ男女共同参画フォーラム  
～誰もが自分らしく輝くために～  
2015女性に対する暴力をなくすキャンペーン



男女共同参画センター あす・べっぴ  
平成28年4月1日で4周年を迎えます。今後も様々な講座・イベントを計画しております。皆様ぜひご参加ください。  
★きらり！輝く人みーつけた  
★2015べっぴ男女共同参画フォーラム(報告)  
★男女共同参画社会アンケート調査(抜粋)

あすてっぴの愛称…「あす」は明日と英語で私たちが表すusを意味し、「ステップ」は英語で足取りや歩調、そして段階を表すstep、また、「び」は別府の「府」です。私たちの明日の未来の男女共同参画のまち別府を性別にとらわれず、自分らしく自分の足取りで生きていこうという気持ちを込めています。

発行：別府市自治振興課 〒874-8511 別府市上野口町1番15号 編集：あすてっぴ市民編集委員  
TEL 0977-21-1141 FAX 0977-21-6399 E-mail aup-pf@city.beppu.oita.jp  
男女共同参画の推進について、ご意見・ご質問をお寄せください。

# ★きらり！輝く人み～つけど★

## NPO法人べっぴん未来塾 川浪 佳恵さん

### 【PROFILE】

別府市の中学校、高等学校を卒業後、県外の大学に進学。大分市、福岡市で様々な職種を経験後、平成6年に別府に帰省。現在、NPO法人べっぴん未来塾代表理事。



## ★NPO法人「べっぴん未来塾」の活動とは？

・まちづくり（地域支援・事業提案・実施）にかかわる活動

具体的には



### 「platform03」P♡3(ぷらさん)

レンタルスペース

★platform…別府市中心市街地活性化協議会が大家さんの協力のもと  
空き店舗や空き家を活用する事業

### 「風穴（かざあな）の二階」

カフェ&フリースペース

### 「北浜マルシェ」

コンシェルジュ機能付き朝市催事

管理・運営



## ★活動のきっかけは？

- ・第1回目から関わった、べっぴんクリスマスHANABIファンタジアで感動する人々に接したことで、“知らない人々の幸せを願う”気持ちに目覚め別府のことを考えるようになった。
- ・これからの別府に関心を寄せる人たちと、文化的に別府を学ぶ会として“べっぴん未来塾”を立ち上げた。
- ・NPO法人の立ち上げは、善意でしている活動を個人的なものから社会的なものへ広げる目的。

## ★これからの抱負は？

### “まちづくり”は“人づくり”

一人ひとりが個性を伸ばし輝くための手助けをしていきたい

たくさんの人とつながりネットワークを広げたい

将来子どもたちに『生きごちのよさ』を感じる別府を残したい



### 【取材を終えて】

川浪さんは「県外で生活をしている時、別府が好きではなかった。それは別府の良さ（宝）を知らなかったから。」と自らを振り返る。その体験が現在の活動の原点ではないだろうか。自分の思いを行動に移し、広げていこうとする情熱に圧倒されたインタビューであった。

そして、何よりも川浪さんの活動を通してplatformの存在を知り、別府の“まちづくり”について私たちも考える機会を持てたことが収穫であった。



レンタルスペース  
ぷらさん  
(platform03)

- ①外観
- ②③内部



# 2015べっぴん男女共同参画フォーラム（報告）

～2015.9.26（土）ニューライフプラザでフォーラムを開催～

## 第1部ミニコンサート ベトナムの民族舞踊

立命館アジア太平洋大学 ベトナムの留学生V-STEPSの皆さん。  
とても美しく優雅な踊りを披露していただきました。



指先のしなやかな動きが印象的で見ていてランの花が咲き乱れるベトナムの青い空をイメージできました。ベトナムの文化に触れるよい機会となりました。  
(60代・女性)

アオザイにもいろいろ色彩があることがわかった。物腰がやわらかく、心がおちつくような感じになった。  
(70代・男性)

異文化をほんの一時でも感じる事が出来、ベトナムに興味を持ちました。  
(20代・女性)

## 第2部 講演「男性にとってのワーク・ライフ・バランス」

### ～イクメンが家族、地域を元気にする～ 講演要旨



講師 渥美 由喜 さん  
(あつみ なおき)

内閣府少子化危機突破タスクフォース政策推進チームリーダー（東レ経営研究所研究部長）  
1992年東京大学卒業。複数のシンクタンクを経て、2009年（株）東レ経営研究所に入社。これまでに海外10数カ国を含む、国内のワーク・ライフ・バランス・ダイバーシティ先進企業750社、海外150社を訪問ヒアリングし、4000社の財務データを分析。また、コンサルタント、アドバイザーとして、実際にワーク・ライフ・バランスやダイバーシティに取り組む企業の取組推進をサポート。プライベートでは9歳と5歳の2児を共働き妻とともに育てており、2回、育児休業を取得。5年前から認知症、統合失調を患っている父の介護（要介護1）に奮闘しており、介護は介介と実感、20年前から、週末に地元の公園で『子ども会』活動を継続し、約2000人の子どもたちと出会う。市民の三面性＝職業人、家庭人、地域人が座右の銘。

### 1. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）は不可欠に

- 人口減少社会における必要性
- ・一人最低でも三役を果たさなければならない状況にある。あらゆる分野で人の奪い合いとなり、一人当たりの業務量はますます増大する。

### 2. 女性のみならず、男性も育児に直面

・『女性活躍』と『男性の育児家事参画』は車の両輪である。

#### 育児をすることで伸びる4つの力

- I. 時間管理能力
- II. リスク管理能力
- III. マルチ業務遂行能力
- IV. コミュニケーション能力

### 3. 女性のみならず、男性も介護に直面

・10年後、介護保険の財政逼迫や施設不足が慢性化し、在宅介護が増加

#### 介護を抱え込まない

自分にしかできないことから逃げずに受け止め  
カミングアウトし、堂々と人に頼る勇気持とう

### 4. 地域活性化策としてのワーク・ライフ・バランス

- ・持続可能な地域社会作り
- ・市民の三面性＝職業人・家庭人・地域人
- ・新しいライフスタイルの提案で若者定住

### 5. イクメンからイクメン

・自分の育った「地域」を育てるイクメンへ

### 6. 今後、増えるリスク（介護・看護）をどう乗り越えるか

・多世代交流は、いのちのバトンリレー

ワーク・ライフ・バランスは“幸せ”への道しるべ



市民として職場で働き、家庭を大切に、地域で自分らしさを発揮して活動していくことが出来たら、自分自身が幸福感を感じつつ、社会の一員としての役目も果たすことができるのでは…と感じました。  
(60代・女性)

途中おもしろかったり泣けたり、またいろんな経験の話をきいて、子育て中の自分が励まされる思いがした。また一方で子育て中で狭まってしまった視野が地域や社会にひらかれていくような感覚を得た。  
(30代・女性)

熱い講演でした。地域にもどり、高齢者、子ども達に何か出来ないのか？を考えて行動したいと思いました。  
(70代・男性)